資料２

大泉桜学園の検証におけるヒアリング記録（児童生徒および学校関係者）

平成２６年１１月２３日現在

期待された効果	検証項目	内容	対象者
①　９年間を見通したカリキュラムを作成・実施することにより、発達段階に応じた計画的・継続的な学習指導および生活指導の充実を図ることができる。（主に学習指導、体力向上）	９年間を見通した教育課程の編成状況	他の中学校に比べて、勉強もよくみてもらっていると思う。穏やかな子供たちが多い。みんな優しいし、このままでいいと思う。むしろ親の方が違和感を感じているかもしれない。	学校関係者
		道徳授業地区公開講座をみたが、何でこれが道徳なのかという気がした。昔の道徳とか倫理とかからすると、今の道徳の授業はよく分からない。我々の年代はマニュアル化されていたのかもしれない。	学校関係者
	４－３－２の区分における発達段階に応じた計画的・継続的な学習指導の充実	基本的に小中一貫教育というものが何なのかは疑問である。小学校と中学校のままでいいのか悪いのか、よく分からない。いろいろな小学校から中学校へ進学し、同級生が増えていろんな刺激を受けるという面もある。９年間連続といっても、中学校を卒業するとどのみち受験がある。そもそも学校の勉強だけで受験が間に合うのか。中学生はみんな塾に行っている。	学校関係者
	５・６年生の一部教科担任制の効果	教科担任制とか他の学校と違うことが自慢できる。	児童生徒
	５・６年生の５０分授業の効果	開校前にプレ７年の授業として５０分の授業を受けた時、５０分はこんなに長いのかと思った。	児童生徒
		小学生なのに５０分授業は面倒だった。	児童生徒
		まだ小学生なのに何で５０分なのかと思った。	児童生徒
		５０分授業はやっているうちに慣れた。	児童生徒
		もう５０分授業だと自慢ができる。休み時間が１０分あって次の授業の準備もできる。	児童生徒
		５０分授業は面倒くさかったが、今はあまり感じない。	児童生徒
	習熟度に応じた指導や補充的な学習などの個に応じた指導等の充実に向けた教員間の協力の状況	算数の少人の授業は、上のグループに入ったり下のグループに入ったりできていいシステムだ。	児童生徒
	児童生徒の		

期待された効果	検証項目	内容	対象者
	学習における観点別学習状況の評価や評定の状況		
	体力向上に向け指導の充実にかかわる教員間の協力の状況		
② 小学校から中学校へ進学する際の段差（学習内容や指導方法の違い）を緩やかなものにし、円滑な移行が図れる。その結果、不登校生徒を減少させることもできる。（主に生活指導、特別支援教育）	4－3－2の区分における発達段階に応じた計画的・継続的な生活指導の充実	小学校と中学校では先生の言葉づかいが違う。小学校の先生は丁寧語が多い。中学校の先生は丁寧語を使わないこともある。	児童生徒
		中学校の先生は慣れてないと怖かった。	児童生徒
		5・6年生で中学校の先生と、7～9年生で小学校の先生と話すことは結構ある。	児童生徒
		小学校でお世話になった先生に「頑張っているね」と言われるとうれしい。すれ違った時に軽いおしゃべりができるのはうれしい。	児童生徒
		担任の先生は優しい。	児童生徒
		7年生の立場はあいまいな気がする。7年生の仕事が少ない。	学校関係者
		子供たちは帰り道で会うと元気に挨拶してくれる。以前より挨拶が増えたと思う。	学校関係者
		中学生も小学生が見ていると悪いことはできないと思う。見られているという自覚があるのではないだろうか。	学校関係者
	円滑な移行による安定した学校生活	開校前は、中学校には怖い先輩が多いと思っていた。	児童生徒
		開校前は壁一枚で別世界だった。やっていることが違うと思った。	児童生徒
		開校前は雰囲気が暗いと感じた。20分休みにも何も音が聞こえてこなかった。	児童生徒
		開校に伴い、急に髪型のこととか校則が厳しくなった。	児童生徒
		開校した時、6年生として西校舎に移り、いきなり中学生と一緒になって恐怖だった。9年生は体も大きかった。	児童生徒
		開校した時、中学生とすれ違うたびに緊張した。知っている人でも、近所で見るより大人っぽく感じた。	児童生徒
		開校前に感じていた雰囲気と比べて、同級生のお兄さんとかが優しくしてくれてうれしかった。	児童生徒
		外から見ると静かだけど、中は賑やかだということが分かった。	児童生徒
		開校前に一番心配していたのは、低学年と高学年が一緒にいて悪い友達になると困るということだった。今のところ、そういうことは全く聞いていない。	学校関係者
	不登校や問題行動の状況	昔の子供はやんちゃだった。昔、サッカー部の面倒をみていた。その頃の子供たちは元気だった。最近は荒れているといっても、荒れているうちには入らない。今の子どもたちはおとなしくていい子が多い。昔のいじめはゲン	学校関係者

期待された効果	検証項目	内容	対象者
		コツだったが、今のいじめは携帯電話を使うなど、いじめがあるのかないのか表面化しないだけなのか分からない。	
	全学年における標準服の着用の効果	中学生になる時は標準服が楽しみだった。生徒手帳とかランドセルがスクールバッグに変わることも同様だった。	児童生徒
	学校の生徒指導に取り組む体制や問題行動への対処の状況	開校前に比べると、とても大きな違いがあった。以前は小学校時代のトラブルなどの情報提供があまりなかった。小学校の教員が引継ぎ事項をあまり書いていないという感じがあった。情報が少ない中で中学校は学級編制をするので、特別な支援や配慮の必要な子供が同じ学級に集まったり、小学校時代に仲が悪かった子供が一緒になってしまったりするなど、保護者からも不安や不満の声が多かった。小中一貫教育校になってからは、小学校時代の情報がきちんと共有されてすごく良くなった。	学校関係者
		小学校からトラブルが続く子供がいた場合も、それを踏まえて対応できている。一般的に個別の対応が必要な子供は、小中学校間の引継ぎとしてケース会議が開かれることはあるが、それは稀である。本校は学校の対応がつながっているので、子供自身も中学校に上がる不安がなく、保護者も改めて話す必要がない。そういう意味で小中一貫教育校という仕組みはとてもいいと思う。	学校関係者
	保護者や地域社会、関係機関等との連携協力の状況		
	スクールカウンセラーや心のふれあい相談員、家庭や地域の関係機関等との連携協力による教育相談の状況		
	特別支援教育の取組状況		
	児童・生徒の体格、疾病等の状況		

期待された効果	検証項目	内容	対象者
③　幅広い異年齢集団による活動を通じて、豊かな人間性や社会性の育成ができる。 （主に道徳、総合的な学習の時間、特別活動、進路指導）	たてわり活動や合同行事等の異年齢集団活動を通じた豊かな人間性や社会性の育成に向けた指導の状況	開校時の４年生は、東校舎でいきなり最上級生になった。いい経験になった。	児童生徒
		読み聞かせやたてわり班の班長も４年生がやることになって大変だったけど楽しかった。	児童生徒
		開校時の５・６年生は、班長になるのを楽しみにしていたけど、それがなくなった。	児童生徒
		５年で児童生徒会に入り、先輩が大きな存在で肩身が狭かった。	児童生徒
		先輩たちがいい見本になっていた。全部が見本だった。飯盒炊さんとかは教えられっぱなしだった。	児童生徒
		他の学校だと中学１年生は一番下の学年だが、７年生だと５・６年生がいるので緊張感をもったりお手本にならなければと思ったりする。	児童生徒
		他の学校だと中学１年生が一番下の学年で心配もあるが、ここでは先輩も後輩もいて心強い。	児童生徒
		先輩を見ていることは役に立つと思う。	児童生徒
		７年生から入学した者としての印象は、小中一貫教育校なのに他の学年との交流が少ないと思った。校舎が同じでも後輩を誰も知らないので声がかけられない。交流は運動会や桜祭ぐらいしかない。部活動や児童生徒会の活動で少し知り合えた。部活動は７年生以上がメインなので、５・６年生はクラブ活動に集中した方がいいと思った。児童生徒会役員会は５・６年生の意見も聞けていい。	児童生徒
		先輩に対等の言葉遣いで話していて、敬語を使うように言われたことがある。	児童生徒
		大泉桜学園のいいところはあいさつだと思う。	児童生徒
		運動会で小学生の競技を見るのは面白かった。いいところが多い。	児童生徒
		運動会では小学生も中学生を全力で応援して、学校が一丸となっていると実感できる。	児童生徒
		小学生の競技を見て、これやったなあと懐かしくなる。部活動の後輩の応援とかが楽しい。	児童生徒
		小学生のうちから中学生と交流できる。	児童生徒
		運動会が一つなので、兄弟姉妹が多い家は保護者が楽になる。	児童生徒
		せっかく小中一貫教育校なのだから、２年生と７年生の合同競技とかがあった方がいい。	児童生徒
		卒業式が長かったり、７年生が出席できなかったりすることは残念である。	児童生徒
		小中一貫教育校なのに９学年一緒の行事が少ない。シェリ祭り（以前、大泉学園桜小学校でやっていた文化的行事）をやって欲しい。学級も団結できるし学年の交流にもなる。楽しかった。	児童生徒
		８・９年生の飯盒炊さん参加がなくなった。行事の数を増やして欲しい。	児童生徒
		ふれあい給食はＰＲすべきだと思う。回数を増やしたい。できるだけ離れた学年と一緒に給食を食べたい。	児童生徒
		児童・生徒会の活動が一緒なのはいい。５・６年生がいると明るい雰囲気だし、意見も活発になる。	児童生徒
		小中一貫教育校になったことについて、開校当時の中学校の先生は結構ぼやいていた。特に運動会である。小中一貫教育校になってよかったという話は聞かない。先生もつい言ってしまうのだと思う。	学校関係者
		小中一貫教育校になって賑やかになって明るくなったと思う。悪くはない。だいぶ慣れた。桜祭も人数が少なくてかわいそうだったので小中一貫教育校になってよかった。子供にマイナスということはない。特に小学生にとっ	学校関係者

期待された効果	検証項目	内容	対象者
		ではよいと思う。中学生にはあまり影響がないのではないかと思う。	
		保護者が感じていることとして、卒業式は別の方がいい。複数学年だと泣けない。泣く場面がない。親は感動して泣きたい。	学校関係者
		入学式は、ほほえましくて受け入れられる。	学校関係者
		開校前の運動会では、人数が少ないから走ってばかりで大変だったが、運動会も中学校では学級対抗がいい。９年生のムカデ競争はとても盛り上がる。	学校関係者
		小学校は劇をやりたいとか、小さい子を連れて会場まで行くのが大変という声はあるが、桜祭は一緒になってよかった。	学校関係者
		小さい子と何を話していいのかわからないから交流給食は緊張すると子供は言っていた。早く給食が終わってくれと思って食べていたと言っていたが、だからよくないということではないと思う。その緊張する気持ちや小さい子と何を話そうかという体験が大事だと思う。	学校関係者
		小中一貫教育校になってなくなった行事を惜しむ声はある。どちらかといえば中学校寄りの学校づくりなのかとも思う。シェリ祭りがなくなった。小学校と中学校のどちらに比重をおくかで変わってくる。子供たちはなぜこの行事がなくなったのか分からないままのようだ。	学校関係者
		運動会は小中一貫教育校になって、中学生が活動する分、余裕ができたような気がする。桜祭はまだ行ったことがないが、すごくいいと聞いている。劇がなくなったのは残念だが音楽だけでもいい。開校前の中学生だけの時は、広いホールががらんとして寂しかった。舞台には20人位で、声も届かなかった。	学校関係者
		学校行事の関係は、活気が出てよくなった。	学校関係者
		運動会や桜祭は思った以上のものだった。こういう行事なのかとびっくりした。大きい子が小さい子の面倒をよくみている。これなんだと思った。今までの学校行事では、子供たちは自分のことで精一杯だった。	学校関係者
		卒業式については、小学校の卒業式が中学校の卒業式に近付いているのではないかと感じた。上に引っ張られているようなイメージがある。	学校関係者
		運動会については、小さな子から自分より大きな子までが一緒になっている。大きい子が小さい子の面倒をみている。６年生が面倒をみるより、７年生が面倒をみることがいいと思った。６年生ではあそこまでできないのではないかと思う。７年生は中学生としては一番下だが、よく面倒をみている。私は大賛成である。	学校関係者
	５・６年生からの参加を含めた部活動の状況	６年で部活動に入れたのは大きかった。先輩となじめる。	児童生徒
		部活動で５・６年生から中学生と関われるのはいいが、６時ぐらいまで練習するので保護者からは心配された。	児童生徒
		６年生から部活動でバドミントンをやっている。１年間やっただけでも、次の年に７年生から入ってきた人との差が大きかった。小学校からやっていると伸びると思う。	児童生徒
		部活動などで小学生と中学生が親しくなると、上下関係があまりなくなる。他の中学校では上下関係は厳しいが、この学校では友達みたいである。他の中学校へ進学した時は、雰囲気の違いを大きく感じるのではないかと思う。	児童生徒

期待された効果	検証項目	内容	対象者
		学校内で仲がいいのは長所だが、先輩への緊張感がないのは短所にもなる。	児童生徒
		先輩に敬語を使わないことがあるし、後輩から対等の言葉遣いをされることもある。	児童生徒
		私は対等の言葉遣いの方がいいから気にならない。	児童生徒
		最初はガチガチだけど、優しい人だと分かると対等の言葉遣いになってくる。	児童生徒
		ずっと敬語だとちょっと困る気がする。	児童生徒
		敬語じゃなくてもいいが礼儀は必要だと思う。	児童生徒
		敬語を使わない言葉づかいについては、高校に行った時に困るのではないかと思う。	児童生徒
		先輩後輩の仲がいいのはいいところだが、やり過ぎはよくない。ある程度意識できれば対等の言葉遣いでもどちらでもいい。今の状態なら大丈夫である。	児童生徒
		ひどい言葉使いをしている人はそんなにいないから大丈夫だと思う。	児童生徒
	伝統文化理解教育の実施状況		
	命の大切さや環境の保全などについての指導の状況		
	自ら考え、自主的・自律的に行動でき、自らの言動に責任を負うことができるような指導の状況		
	特別支援学校の児童生徒との交流及び共同学習の状況	３校連絡会では、大泉特別支援学校からすごく感謝される。中学生のボランティアなど、特別支援学校の生徒たちがとても楽しみにしていると言われて嬉しい。	学校関係者
④　小学校の教員	小・中学校	開校前、子供が小学校から中学校へ進学した時、小学校の先生と中学校の先生は大きく違うと感じた。中学校の	学校関係者

期待された効果	検証項目	内容	対象者
と中学校の教員の相互協力関係が今まで以上に構築でき、学力や体力の向上等の高い教育効果を上げることができる。（主に学校運営）	教員の相互協力関係の構築	先生は子供たちに任せるが、小学校の先生は細かくみてくれる。中学校は勉強主体で子供たちが先生に寄っていかないと先生は関わらない感じがした。大泉桜学園は人数が少ないので、子供たちの役割分担も同じ子になってしまう面があった。頼りになる生徒に頼んでいる感じがした。小学生の時は宿題をたくさん出してくれていたが、中学校へ行ったら宿題はあまりない感じがした。	
		小中一貫教育校になり、中学校の先生も小学校校舎に来てくれて、先生の雰囲気も変わった気がする。６年生になったら、いろいろと任せてみてもいいと思う。	学校関係者
		開校前と比べて小中学校の両方の先生に協力してもらえる。	学校関係者
		１年生から９年生まで一緒にいて先生は大変だと思う。先生方も一生懸命やっているようにみえる。大泉桜学園は小中一貫教育校の条件としては一番いいと思う。	学校関係者
	校内研究の実施状況と小中一貫教育の研究		
	学校組織（校長１名・副校長３名体制）、兼務発令、校務分掌、組織体制、用務、施設管理、給食、事務、諸会議の運営等の小中一貫教育校としての運営状況		
	学校の財務運営の状況		
⑤　地域社会と連携した特色ある学校づくりを推進し、魅力ある	地域社会と連携した生涯スポーツの推進	地域の野球クラブとしては、大泉桜学園の校庭を使わせてもらって大変助かっている。地域の野球クラブは、この学校に野球部がなかった時代から、野球好きな子供たちの受け皿となって活動してきた経緯がある。中学校の部活動を引退した生徒が入ってくることもある。	学校関係者

期待された効果	検証項目	内容	対象者
学校とすることによって、保護者や地域社会からの信頼を得られる。その結果、学校と地域社会の活性化を図ることができる。（主に保護者、地域）	地域社会との連携と小中一貫教育校による学校・家庭・地域社会（避難拠点、青少年育成など）との連携状況	主任児童委員として関わる件数については、開校前後でそんなに変わらない。直接、保護者にお会いして話す場合と様子を見る場合がある。どちらの件数も小中一貫教育校になったことで変わったわけではない。関わる件数は、小中一貫教育校かどうかというより、担当する副校長や子ども家庭支援センターの担当者の考え方などによって変わってくる。	学校関係者
		この地域には町会が三つあり、以前は事実上、小学校と関わる町会と中学校と関わる町会で何となく分かれていた面があった。避難拠点運営連絡会も小中学校で別々にあり、どちらに関わればいいのかという状況があった。今は学校が一つなので避難拠点運営連絡会も一つになり、関わりやすい。	学校関係者
		開校に向けていろいろな意見はあったが、今はない。いい方向に動いていると思う。児童放課後居場所づくり（ひろば）事業では、開校前の小学校の時には雨天時に体育館が遊び場所として使えたが、小中一貫教育校になって部活動で使うようになったので、使えなくなった。最初は子供たちが、自分たちの体育館なのになぜ使えないのかと言っていたが、今は最初から使えないと思っているので何も言わない。５・６年生は部活動があって、ひろばにはほとんど来ないし、４年生も委員会活動などがあるためかほとんど来ない。１～３年生だけなので、雨でも部屋で納まっている。子供たちは体育館に行くと興奮してしまう。体育館で遊ぶ子供たちをスタッフ２人でみるのは不十分なので、現状はこれでよいと思う。	学校関係者
		再登校の時にはひろばで待機してもいいと言っているが、子供たちはあまり来ない。子供たちはひろばや学童クラブ以外の遊び方を覚えると来なくなる。小中一貫教育校になる前は、当時の家庭科室（今のランチルーム）を使っていたので、机を片付けてマットを敷いてと準備が大がかりだった。開校後は専用の部屋が用意されている。	学校関係者
		ひろば事業のさくらっ子まつりでは、280 人くらいの子供が参加している。中学生が手伝いに来てくれている。机の準備などもすごく速い。さくらっ子まつりは自分たちが遊ぶところであるのに対して、シェリ祭りは自分たちが中心になってつくるので子供たちは楽しみにしていた。	学校関係者
		中学生にも来てもらいが、ひろばに中学生が来ることはほとんどない。	学校関係者
		学校応援団のクリスマスコンサートには、吹奏楽部が参加してくれている。	学校関係者
		小中一貫教育校しか知らない保護者が多くなってきた。今の学校の状態が当たり前と思っている。地域も最初は戸惑っていた。	学校関係者
		青少年育成地区委員会からみると、小中一貫教育校になっても特に大きな変わりはない。	学校関係者
		先週、東町会の運動会があって桜学園の１～４年生にもチラシを配って何人も来てくれた。ラジオ体操をやったが、みんなきちんとやるので驚いた。学校の先生が一生懸命教えているからではないか。いい子ばかりである。	学校関係者
		町会の祭りでも、何年か前までは生徒の様子に問題はあったが、最近は言うことを聞く子供が多くなった。大泉桜学園の吹奏楽部にも参加を頼んでいる。吹奏楽部が来てくれると家族も見に来てくれるので盛り上がる。	学校関係者
		小中一貫教育校ができる話を聞いた時、ちょうどいいと思った。ホームレスの自立支援施設が大泉学園にできたり、大泉学園桜中学校も廃校になったりするのではないかと心配していた。小中一貫教育校にするとなれば、練馬	学校関係者

期待された効果	検証項目	内容	対象者
		区が力を入れて、街もよくしてくれるのではないかと思った。話がきた時は、すぐに賛成した。	
		町会としては賛成だったが、親としてはなぜ小中一貫教育校にするのか心配だったのではないかと思う。他区の小中一貫校に視察した際、ＰＴＡの人から非公式に聞いた話では、開校2，3年目で子供の数が減ったと言っていた。大泉桜学園も区界で三つの方向に住宅地がないから、条件的に子供が集まりにくいと思う。部活動も増え、小中一貫教育校にしてよかった。	学校関係者
		町会としては、大泉桜学園以外にも他の小学校、中学校との関わりがある。大泉桜学園は一つの学校として小学校のことも中学校のことも分かる。	学校関係者
		開校前と比べて今の学校と以前の小・中学校とを比べることは難しい。町会としては、一つの学校となった方が関わりやすい。	学校関係者
		地域の町会として学校を支援しようという姿勢でやってきた。開校前は避難拠点運営連絡会など、小学校、中学校はそれぞれ3町会で分担していた面があった。小中一貫教育校になり、一緒にやるようになった。	学校関係者
		小中一貫教育校は親の目から見てどうかと言う問題があるかもしれないが、町会としては、大泉桜学園が区内初の小中一貫教育校としてモデルケースになる、いい学校にしたい、何か協力できることはないかと考えた。反対はしていない。もともと行政に対しても一貫して協力してきた。	学校関係者
		小中一貫教育校が開校して、3町会で顔を合わせることが多くなった。大泉桜学園のおかげで町会同士の風通しもよくなった。学校が一緒になって地域も一緒になった。小中一貫教育校になったおかげで、地域としてもスムーズになった。大泉桜学園はモデル校であるので、学校から要望があれば協力する。	学校関係者
		練馬区からも大泉桜学園の子供を巻き込んだ防災活動をしてほしいという話がある。避難拠点運営連絡会の活動も会場は学校である。学校とのやり取りもスムーズになった。	学校関係者
		本校の子供たちは地域の祭りに親と来る。商店会の祭りにも大泉桜学園の生徒もよく来るが、大騒ぎするようなことはしない。	学校関係者
		吹奏楽部が地域で発表してくれると、地域で元気が出る。地域は学校が中心である。	学校関係者
		町会役員は高齢の人が多い。町会の祭りなどに大泉桜学園の子供たちがさらに参加してくれるといい。	学校関係者
	ＰＴＡ組織や学校評議員会の状況	小中一貫教育校が開校し、子供たちが新しい体験をできるのはいいことだと思う。	学校関係者
		保護者会組織については、今年初めて小中合同の役員会をやった。概ねうまくいっている。桜祭のような行事にも小中学校の保護者が一緒に関わっている。	学校関係者
		保護者会の活動に理解ある方と理解のない方との差が広がっているのは、小中一貫教育校も同じである。活動に関わらない方は、学校が好きな仲間だけが何かやっていると見ているのかもしれない。	学校関係者
		大泉桜学園の保護者は、全体的におとなしい感じの人が多い。他の小学校から入ってくる保護者を仲間に入れないということはないが、出身小学校が同じ者同士で固まってしまうということはある。	学校関係者
		大泉桜学園の保護者が団結しているので、他の小学校から入った保護者は、同じ小学校同士となりやすい。桜連	学校関係者

期待された効果	検証項目	内容	対象者
		絡会の役員になったことで知り合いが増えた。中学生の保護者はなかなか学校には来ない面がある。	
		桜連絡会は、開校当時は小学部、中学部は別々に活動していた。合同役員会はあったが、その他は別だった。徐々に距離が縮まり、今は全て一緒に活動している。行事の役割分担もできないことを補い合っている。クラス委員は小中一貫教育校になり負担が増えたと思う。特に中学部は、以前はあまり部会の活動がなかったが、小学部に合わせて活動することが増えた。会議の時間帯も合わなかったが、今年から小学部に合わせて午前中に一緒にやっている。中学生の保護者も来てくれている。小学校のＰＴＡでやっていたことを中学校の保護者も一緒に活動するので大変になったかもしれない。まだ当たり前にまではなっていない。中学校は役員やる人がいなくてくじ引きで決めている。子供の数が増えると保護者会の活動をやらなくてもいい人が出てくるが、人数が少ないので全員やるという状況になる。新入生の役員決めはとても大変である。役員をやる人がいないなら、この組織自体をやめてはどうかという意見もある。	学校関係者
		開校当時のＰＴＡ活動は、小学校と中学校で組織も会費も違っていたので、大変だったようだ。小学校と中学校の先生が違うように、小学校と中学校の親も違うのかもしれない。集まる時間も小学校は午前中だが、中学校は夕方とか土曜日とかであった。	学校関係者
⑥　施設整備における効果と課題	職員室、東校舎・西校舎、渡り廊下、校庭、ランチルーム、多目的室、プール、体育館、学習室、保健室、相談室、個別学習室、学校図書館ほか	開校時に小学校と中学校の校舎の間にあった通路のしきりがなくなった。前からなぜ通路を活用しないのかと思っていた。小学校から中学校へ行くのに、いちいち靴をはいて外を回っていた。開校して６年生の教室が西校舎に移って、小学校と建物がつながっていることが分かった。	児童生徒
		小学校の時も鍵を取りに行く時などでは職員室に行っていたが、職員室が一つになった今の方が緊張感はある。	児童生徒
		職員室には、友達とお前行けよとか言い合うこともある。	児童生徒
		小学校の時は知っている教員が多かったが、名前を知らない先生が多くて職員室には入りにくい。	児童生徒
		小学校の先生は奥の方に座っていて呼べなかった。	児童生徒
		５・６年生で西校舎に行けるのは嬉しかった。	児童生徒
		階段の高さも違って大人になった感じだった。	児童生徒
		技術室とか多目的室とか教室移動が増えた。	児童生徒
		小学校は他の小学校でまわりの友達は他の中学校を選んだが、中学校の通学区域が大泉桜学園だった。家から近いのが一番で、友達はつくればいいと考えて大泉桜学園に入学した。こじんまりした少人数制の中学校が好きだった。先生が全員の子供と親の名前を覚えていた。小中一貫教育校の話を聞いた時、なんで小中一貫教育校になるのかと思った。	学校関係者
		小中一貫教育校になり、学級の生徒数が 40 人近くなって教室が狭くなった。学校公開の時も教室が生徒でいっぱいで親は入れなかった。上の子供の時は１学級は 25 人だったから余裕があった。	学校関係者
		開校前は、小学校と中学校の間の扉は開いていなかったが、つながってはいると思っていた。保護者会の役員同士は、４校連絡会で交流はあったが、子供たちの交流はなかった。	学校関係者

期待された効果	検証項目	内容	対象者
		校舎が分かれていると中学校は別の世界になってしまっていた。	学校関係者
⑦　小中一貫教育の課題を解決し推進するための先導的な役割、通学区域と学校選択制度、教育委員会の役割	通学区域制度の特例、学校選択制度の特例	大泉桜学園は小規模校で人数が少ないから埋もれずに活躍できる。イメージはよくなっていると思う。他の小学校の子供が、中学校の通学区域が大泉桜学園だから小学校段階から大泉桜学園に通うことを考えているという話も聞いた。部活動が少ないのでやりたい部活動がある子供は、他の中学校を選ぶ場合があることが課題だ。	学校関係者
		他の小学校から７年生の時に大泉桜学園に入学した。通学区域だった。新しい友達をつくりたかったし、小中一貫教育校に興味があった。小中一貫教育は他の学校では味わえないからだった。	児童生徒
		子供が中学に入った時に小中一貫教育校の話が出た。当時は学校との関わりはあまりなく、ああそうなんだというくらいの感想だった。勤めている保護者としては、兄弟姉妹の通う学校の行事が一緒になり、先生との話も小中一緒で有難い。利便性が高まるという方が大きかった。	学校関係者
		小中一貫教育校になり、下の子供は上の子供と一緒になって喜んでいたが、上の子供は「うざい」という感じだった。保護者としては、リスク管理として、地震などの時は必ず下の子供を連れて帰るように上の子供に言っていた。	学校関係者
		中学校選択制度がなくなるという噂があった。学校を選べるなら違うところに進学しようとなる。大泉桜学園は部活動が少ないから他の中学校を選ぶという人は多い。特に文化部が少ない。普通に入って普通に楽しめる部活動が少ない。陸上部や卓球部、パソコン部などがない。大泉桜学園では、部活動を途中で変えられないということで怒っている保護者もいた。中学校イコール部活動と考える保護者は多い。保護者も子供も部活動と友達で学校を選ぶんでいる感じはある。小中一貫教育校かどうかは気にしていない。	学校関係者
		７年生から小中一貫教育校に進学することについて、途中からは入り辛いということは全然ない。何の抵抗もない。すぐ友達ができた。保護者が心配するほどのことではない。初めて小学校に子供を入学させる保護者は、中学校のことまでは考えていないと思う。小学校高学年になって初めて中学校のことを考える。他の小学校の学区域になっている地域も、大泉桜学園にしてもらえればとも思う。他の小学校に通っていた時には、大泉桜学園の情報はなかった。他の中学校の話が中心で、大泉桜学園のことを何も知らないまま入学した。	学校関係者
		いろんな人から大泉桜学園はどうかと聞かれる。いい学校だと言うが、他の中学校に行ってしまう。他の小学校と大泉桜学園の学校行事が重なることが多く、大泉桜学園を見に行けなかった。せめて見に行く機会をつくった方がよい。	学校関係者
		小学校と中学校が一緒になっているということ以外に学校の細かいところについては、外の人間には分からない。いい話は聞こえてこないが、悪い話は聞こえてくるものである。近所で「あの先生がまだいるので嫌だ」と言って他の中学校へ行った子がいた。９年間、同じメンバーでは嫌だという人もいる。マイナスのイメージを一度もつと、ずっと引きずってしまう。	学校関係者
		野球クラブに入っている子供は、大泉桜学園の野球部員が少ないため、中学校の選択に非常に迷った。中学校選択制度は子供にとって酷な部分もある。アクティブな子供ほど部活動の比重は大きい。やりたいことが明確である。	学校関係者

期待された効果	検証項目	内容	対象者
		６年生は大泉桜学園の部活動の様子が見えてしまう。ある意味でワクワク感がない。	
		練馬区として９年間を一貫した教育をねらっているのであれば、私立受験者は別としても、原則として９年間在籍してもらうというようにしてもよいのではないか。７年生からもどんどん入ってほしいということなのであれば、小中一貫教育校とはいっても、小学校と中学校があるという感じになると思う。	学校関係者
	小中一貫教育校への支援および小中一貫教育の充実・推進の状況		